

宇治市の 小中一貫教育

発行 平成 22 年 10 月

宇治市教育委員会事務局
教育改革推進室小中一貫教育課
〒 611-8501 宇治市宇治琵琶 33 番地
Tel 0774-21-1890
E-mail : ikkankyouiku@city.uji.kyoto.jp

9 年間の連続した学びの中で 確かな学力と豊かな人間性・社会性を育てる 小中一貫教育を目指しています

平成 24 年度から宇治市立の
全小・中学校で小中一貫教育を実施します

平成 22 年度は宇治市独自に配置した 16 名の教員を活用し、各中学校区で小中一貫教育チーフコーディネーターと教科連携教員が中心となり、小・中学校間の交流、授業での連携等の計画や取組を進めています。

今後、小・中学校で共通した目標をたて、学校組織や運営体制を一元化し、平成 24 年度からは宇治市立の全小・中学校において小中一貫教育を二つの体制（下図参照）で実施します。

中学校の教員が、小学校で授業を行っています

「三点倒立ができたよ!!!」



小学校の体育の授業で「マット運動」を指導する中学校教員（西小倉中）（5月 西小倉小）

「英語のジャンケン大好き!!!」



←小学校の外国語活動の授業で「英語のジャンケン」を指導する中学校教員（西宇治中）（6月伊勢田小）

小学校の教員も中学校で授業を



中学生に「スポーツと栄養」の話をする小学校栄養教諭（南小倉小）（6月 西小倉中）

小中一貫教育は『小中一貫校』と『小中一貫教育校』の二つの体制で実施

小中一貫校



小学校（1～6年生）
中学校（1～3年生）

小中一貫教育校



小学校（1～6年生）

小学校（1～6年生）

『小中一貫校』は、小学校と中学校の施設、組織・運営を一体化した形態で、教職員、児童生徒が同一敷地で日常的に交流を行いながら教育活動を進めます。『小中一貫教育校』は、小学校と中学校の施設は独立しているものの、教育目標や学校組織等を一元化し、「一つの学校」として機能する形態で、教職員、児童生徒が積極的な交流を行いながら教育活動を進めます。

小・中学校教員の協力で 系統的・継続的な授業を進め 学力の充実・向上を目指します

各中学校区の小中連携加配教員（※1）と教科連携教員（※2）は、小学校の学級担任とともに小学校と中学校のスムーズな接続を図った学習指導を行っています。

また、他の教員も小学校や中学校で授業を行ったり、小・中学校が合同で授業研究会を開いたりするなど、小学校と中学校が連携して授業改善を図り、児童生徒の学力の充実・向上を目指しています。

※1 小中連携加配教員：京都府教育委員会が5校に配置

※2 教科連携教員：小中連携加配教員未配置校と研究指定校に宇治市教育委員会が配置



中学校教員（木幡中）の指導で理科の授業でマッチの使い方を練習する小学生（4月 木幡小）

小学生と中学生の 交流を通して 豊かな 人間性・社会性を育てます

小学生と中学生の交流を計画的・継続的に、中学校入学時の不安の解消や、児童生徒の自尊感情の向上など、豊かな人間性・社会性を育てることを目指しています。



小学生に「カンフー体操」を教える、南宇治中 中国文化拳術部の生徒（7月 平盛小）



中学校教員（宇治中）と小学校学級担任の指導で意欲的に外国語活動の学習をする小学生（6月 菟道第二小）



中学校教員（南宇治中）と小学校担任で指導する音楽の授業で、元気いっぱい歌う小学生（6月 平盛小）



小学生の交通安全教室を手伝う、職場体験学習中の東宇治中生徒（5月 岡屋小）



大久保小、大開小、広野中の児童会・生徒会役員の合同会議で話し合う児童生徒（6月 広野中）

中学校の『ふりスタ』も 小・中学校が連携して…



横島中の『ふりスタ』（※）には、校区の小学校の教員も協力。生徒も多くの教員に励まされながら、学習に取り組まれました。（8月）
※『ふりスタ』は「中1振り返り集学習」の略称で、中学1年の早期に基礎基本を徹底し、学習のつまづきの解消を図るとともに、主体的に学習に取り組む意欲・態度を身につける集学習です。府内の全中学校で実施しています。

小・中学校教員合同研修会 7月30日 於 宇治市生涯学習センター

呉市（広島県）、横島中・広野中学校区の 小中一貫教育の成果を学びました

3校区の実践報告のあと、「教職員の連携」「教科連携」を進める上での苦勞などを意見交換しました。高乗教授は講演で「学校の教育力・組織力・チームワークがうまく機能するためにはコミュニケーションが重要」と強調され、参加者からは「小中一貫教育を通して学力の向上、中1ギャップの解消、教師自身の意識改善の必要性を感じた」「色々な工夫ができることを感じた」等の感想がありました。



小中一貫教育を進めるポイントを話す高乗秀明教授（京都教育大学大学院）



パネルディスカッションする3校区の教員。左より福岡教諭（呉市立和庄小）、小谷教諭（北横島小）、小林教諭（広野中）

小中一貫教育 コーディネーターとは？

小中一貫教育コーディネーターは各校に1名任命され、学校の小中一貫教育の取組をコーディネート（調整）する仕事をしています。

チーフコーディネーターは中学校区のまとめ役として中学校区に1名配置され、他のコーディネーターと協力し、小・中学校の連絡調整を図り、中学校区での小中一貫教育を進める中心となっています。



中学校区別に課題を話し合うコーディネーターの教員（5月 コーディネーター会議）

小中一貫教育推進協議会で 意見交換や調整を行っています

小中一貫教育を総合的に進めるために、小中一貫教育推進協議会（高乗秀明会長 京都教育大学大学院教授）を平成20年4月より設置し、一貫教育についての意見交換や調整を行っています。本年度の委員は、学識経験者と小・中学校保護者や地域関係団体の代表者、小・中学校教員、市教委職員の合計12名で構成しています。また三つの専門部会（学校運営、教育課程、地域連携）を設置し、協議会における意見交換や調整に必要な調査、研究等を行っています。



本年度第1回推進協議会の様子（6月）

夏休みに中学校区単位で研修会 小・中学校の教職員がともに学ぶ

各中学校区の研修会では、小・中学校の教員が学力状況・児童生徒の様子等を交流したり、系統的・継続的な生徒指導や学習指導の進め方などについて研修したりしました。講師の先生を招き、重点課題（「ことばの力」（横島中）・「伝え合う力」（広野中））の研究を深めた中学校区もあります。

北宇治中・広野中学校区では秋の研究授業に向けて、小学校と中学校の教員が話し合いました。小・中学校での指導のポイントを押し、児童生徒にわかる授業を目指し、研究授業の学習指導案を検討しました。



1学期の取組を報告するチーフコーディネーター（8月 北宇治中学校区合同研修会）

宇治市教育委員会
小中一貫教育研究指定校

研究指定校では、小中一貫教育の調査研究を行うとともに、試行的に先行実践し、その成果の普及を図ります。(平成 20・21・22 年度)

宇治市の小中一貫教育をリードする研究指定校

広野中学校区 (広野中・大久保小・大開小)

小中一貫教育校型

学園名「宇治ひろの学園」(愛称)を決め、「**伝え合う力**」の育成を重点に**3年間の研究成果をまとめる**

研究主題 「自分の気持ちや考えを伝え合うことができる児童生徒の育成」

三校の一体感を目指した学園名(愛称)の手作り看板(8月広野中)



秋の研究授業に向け、指導内容や指導方法を話し合う小・中学校の教員(8月 合同研修会)

宇治小学校

小中一貫校型

(仮称)第一小中一貫校開校に向けて、**建設工事が始まり、保護者・地域の意見を聞く委員会を立ち上げる**

研究主題 「義務教育9年間を見通した小中一貫教育の創造」



建設工事が始まった運動場北東側の様子(9月)

(仮称)第一小中一貫校開校に向けて、小中一貫校開校準備に係る地域委員会(部正永座長)は地域住民・保護者31名で構成しています。第2回会議では、教育目標等についてのご意見をいただきました(8月 宇治小)



平成 22 年度「宇治市教育の日」事業 宇治市小中一貫教育フォーラム

聞いて・見て・知って
小中一貫教育のこと!

平成 22 年
11 月 6 日(土)
9:00 ~ 12:00
宇治市生涯学習センター

～学校・家庭・地域がともに進める小中一貫教育～

- パネル展示 各中学校区での小中連携(一貫)教育の実践紹介
- シンポジウム 「学校が変わり、地域が変わり、そして子どもたちが光り輝く小中一貫教育」
- シンポジスト 広島県呉市立和庄小学校 教諭 福間 武志(和庄中学校区)
宇治市立大久保小学校 主幹教諭 市橋 公也(広野中学校区)
宇治市連合育友会 会長 芝野 志真(木幡小学校 PTA 会長)
- コーディネーター 京都教育大学大学院連合教職実践研究科教授 高乗 秀明